

## 事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)	
竹内愛	(代表者名: )
2. 研究または活動のテーマ(課題名)	
「ネパールの旧王都パタンにおけるネワール女性のエンパワメントに関する文化人類学的研究—社会内部の階層と差異に焦点をあてて」	
3. 助成額	
310,000 円	
4. 実施期間	
2013 年 10 月 ～ 2014 年 5 月	
5. 実施状況	
<p>私は、貴基金助成により、ネパールのカトマンズ盆地に居住するネワール族の女性自助組織「ミサ・プツァ」の活動について文化人類学的フィールドワーク(現地調査)を実施し、ネワール女性たちの生き方の変容について研究を推進することができました。フィールドワークは、2013 年 11 月 17 日～23 日の期間、ネパールのカトマンズ盆地に位置するラリトプル市(パタン)にて、女性自助組織「ミサ・プツァ」を訪れ、参与観察と聞き取り調査を行い、とくに、近年の活動状況について調査しました。そして、フィールドワークの成果を含むこれまでの研究を英語論文 <b>A case study of the change and influence of women's self-help organizations <i>misa puchas</i> in Patan, Nepal</b> としてまとめ、愛知県立大学多文化研究所が発行する『共生の文化研究』第 8 号 (pp.99-110)に掲載されました。</p>	
6. 事業成果と自己評価	
<p>まず、貴基金からの助成のおかげで調査研究を行うことができたことを、心から感謝申し上げます。</p> <p>フィールドワークでは、先進的でユニークな活動を積極的に行っている 2 つの女性自助組織の活動を中心に参与観察と聞き取り調査を行いました。パタンに 100 以上存在しているそれぞれの「ミサ・プツァ」は、互いに影響を受けながら多様に発展しており、ネワール社会において、女性たちの社会的役割は確実に大きくなっていることなどが明らかになりました。</p> <p>本事業では、有意義なフィールドワークの実施と英語論文の刊行を行うことができ、十分な成果を挙げたと考えています。今後も研究を継続していかねばならないと考えています。以下で、研究内容の概要を紹介します。</p>	

ネパールのカトマンズ盆地に位置するパタンには、紀元 13 世紀初頭から 18 世紀中期までマッラ王朝を築いたネワール族が生活をしている。ネワール族の伝統的なジェンダーは、「ヒンドゥー教的な女性観」、「父系出自制」、「家父長制」などが絡み合い、非常に厳格で構造化されたものであり、女性の社会的、文化的な立場は男性に比較して低い。しかし、1990 年代になって、地元 NGO によって、パタンに女性の経済的自立を目指して女性自助組織「ミサ・プツァ」が持ち込まれ、マイクロファイナンス（小規模金融）、職業訓練、識字訓練などが行われた。その後、グループは毎年パタン各地で自発的に設立され、現在パタン内部には、100 を越える「ミサ・プツァ」が存在する。各々のグループでは、ボランティア活動や親睦活動、協同作業など、地域のニーズに合わせて多様な活動がなされている。「ミサ・プツァ」の本来の目的であるマイクロファイナンスは、女性たちの毎月の掛け金が少ないために、グループ基金が貯まらず、融資額が少ない。そのため、実際に女性がビジネスを始められたケースは非常に少ない。つまり、女性たちの経済的な自立の達成は難しい。しかし、女性たちが派生的な活動を積極的に行うことで、女性の生き方は徐々に変容し、社会的・文化的なエンパワメントを果たしつつある。「ミサ・プツァ」の活動は、メンバーのエンパワメントや地域の人々のために役立っている。

私は 2000 年から「ミサ・プツァ」について調査を断続的に行ってきたが、今回の調査で明らかになったことは、「ミサ・プツァ」の多くは、創立 10 年～20 年を越え、地域における存在感が大きくなっており、「ミサ・プツァ」がネワール社会変革の本格的な行為体になっており、男性たちとともに、積極的にコミュニティ運営をするようになったことである。

例えば、パタンのノートル地区では、「ミサ・プツァ」の女性たちが男性の伝統的な組織である「グティ」と協力し、2012 年から市の土地であるゴミ捨て場を清掃し、市に許可を得て、コミュニティの運営する駐車場をつくった。そして、私が調査した 2013 年 11 月時点で、「ミサ・プツァ」の女性たちが交代で常駐し、コミュニティの収入を生み出し、また、女性たち自身も給与を得ることができている。女性の社会的役割が大きくなっただけでなく、女性自身、職を得て、僅かではあるが金銭を生み出し、家計を支えるようになった。

女性たちは、2000 年代後半になって、これまで「ミサ・プツァ」で行ってきたマイクロファイナンスでは、女性の経済的自立のためには役立っていないと結論づけ、「ミサ・プツァ」が複数集まって、金融組合 (Saving and Credit Cooperative) を設立しはじめた。今回の調査で明らかになったのは、「ミサ・プツァ」によっては、その金融組合から離脱、独立し、自分たちのコミュニティ内部に、男性とともに、新たな金融組合を設立し、コミュニティを中心に金融活動を始めているということである。コミュニティの金融組合の役員構成は、男性組織「グティ」から 3 分の 1、「ミサ・プツァ」から 3 分の 1、若者組織「ユワサミティ」から 3 分の 1 とし、クォータ制にしており、女性がコミュニティの一員として、責任ある役割を担い始めている。

女性たちの多くは職を持たないため、その生活圏とは、コミュニティの中だけであり、コミュニティの中で中心的な役割を担うことは彼女たちにとって、非常に重要なことである。そして、女性たちは金融組合での活動や駐車場経営によって、経済的にも家計の一部を支えはじめており、地域、家庭において社会的、文化的、さらに、経済的にもエンパワメントをしつつある。